

わたしたちが広島で感じたこと



=永明中学校 2年=
上條 日向 さん

私は、原爆が多くの人の人生を奪い、人々を悲しませたという事実を改めて実感しました。ヒロシマ・ナガサキで起きた悲劇が今も世界で起きている現実と、絶対に起こしてはならない事を、多くの人に伝えていくことが広島に行った私達の使命だと思います。

今回の旅で、広島の人々の平和に向かう真つすぐな思いを直に受けました。原爆ドームや戦争の時代の話、あちこちで見ると折り鶴のモチーフ。遠いようで近い過去の話、終わったことにはしてはならないと強く感じました。



=永明中学校 2年=
小林 真理恵 さん



=北部中学校 2年=
島田 茜慈 さん

実際に広島を訪れ、私は外国人の多さに衝撃を受けました。原爆ドームや資料館を見学していたのは半数以上が外国人でした。どこの国の人であっても母国以外の国の悲史を知ろうとする姿勢に心を打たれました。

世界全体が平和に向かうために、平和の大切さを学び続けていきたいと思いました。この旅で、被爆した方が僕達に伝えてくださった「生きる」という意味を考えながら、一日一日を大切にしていきます。



=北部中学校 2年=
守屋 昊一郎 さん



=東部中学校 2年=
植田 華音 さん

広島での三日間は「平和」について考える旅となりました。どれだけ今ある普通の生活が素晴らしいか、どれだけ平和が大切か。目に焼き付けてきたもの、肌で感じ取ってきた事を頼りに平和への第一歩として私達に出来る事から伝えていきます。

平和の旅で一番印象的だったのは、被爆者証言のつどいです。中学生の時に被爆した方だったので、記憶が鮮明で、当時の状況を詳しく伝えてくれました。今回のお話を私が身近な人に伝えていき、平和の輪が広がっていくことを願っています。



=東部中学校 2年=
原 慧蓮 さん



=長峰中学校 2年=
片桐 優珠 さん

私は、広島平和の旅を通して今の生活がどんなに幸せか、本当の平和とは一体何なのか、平和な世の中にしていくためには、私達に何ができるのかを学び、考えることのできる三日間でした。

今回の広島平和の旅に参加させていただき、今の平和の幸せさに初めて気づく事ができました。一人一人の平和への意識を変え、人権を尊重し、「行動」していく事で平和な世界が広がっていくのではないのでしょうか。



=長峰中学校 2年=
鵜飼 栞里 さん

広島平和の旅

茅野市では、非核平和事業の一環として、市内の4中学校の2年生を対象に非核平和への想いを作文にいただき、最優秀賞に選ばれた8名を8月に広島へ派遣しています。

広島市で行われる「広島平和記念式典」への参列、平和記念資料館等の見学や証言のつどいへの参加など、平和の大切さや平和の尊さを学んでいます。

8名の中学生が広島平和の旅で感じたことや平和への想いをご紹介しますとともに、旅の様子もお伝えいたします。

平和記念式典

8月6日、平和記念式典に参列しました。厳肅な雰囲気の中で慰霊碑へ献花をし、原爆が投下された午前8時15分には、平和への祈りと被爆者への慰霊の念を込めて、黙とうを捧げました。



原爆被害者証言のつどい「8・6証言のつどい」

被爆者の方から、被爆当時の広島市内の様子や、友人や家族を亡くしつらい思いをしたこと、今も原爆の後遺症に苦しみながら生活されている方が大勢いることなどをお聞きました。

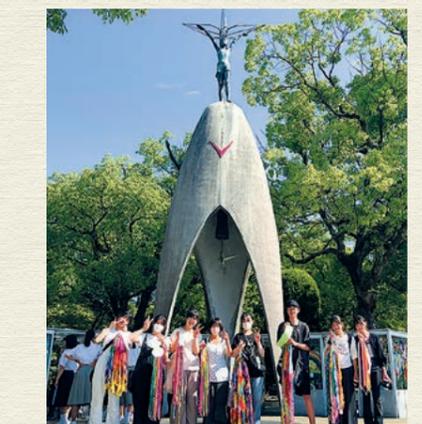


原爆ドーム



原爆の子の像

市内の中学生や市民の皆さんに折っていただいた千羽鶴を平和記念公園の「原爆の子の像」に捧げました。



灯籠流し

平和への願いを込めて灯籠を制作し、灯籠流しに参加しました。

